



- 永代共養墓について
- ぶつぐら雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんがお坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつぐらグッズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第11回 座敷わらし

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

これは、今から15年ほど前、私の娘がまだ小学3年生だった夏の日に起こった、とても不思議な出来事です。

そのころ私たちは、「子どもが小さいうちは大自然の中で育てたい」という考えから、1年の大半を長野県で過ごしていました。ウィークデーは、娘が通う小学校に程近い長野市内のマンションで過ごし、ウィークエンドは山奥の別荘でゆっくりする決まりでした。別荘と言っても、古い農家を買って取り壊して大改造をほどこした山小屋ですから、築150年とか200年とか、ハッキリした年数はわかりませんが、とにかくびっくりするほど古い建物です。

家の中央にあるメインの部屋には、精一杯手を伸ばしても届かないほど高いところに大きな神棚があって、そこには、前の住人が使っていたらしい宮形(みやがた=小型の神社のこと)や、さまざまな縁起物がそのまま残っています。庭の片隅には、いかにも古そうなお地藏さまが立っているのですが、それもそのはず。かつてこの村には偉いお坊さまが開いたお寺が建っていたそうですから、お地藏さまは、きっとその名残りなのでしょう。

近所には住む人もなく、いちばん近い“お隣さん”までの距離は、約2キロ。近く森にはタヌキやイタチ、キジ、フクロウなどが生息しており、人間の留守中にタヌキが家に入りこみ、勝手に暮らしはじめしてしまったこともありました。

電気と電話はかろうじて通っていますが、水道はなく、井戸だけが頼り。冬期は深い雪に鎖ざされて道がなくなってしまうため、家に帰るためには雪上車やスノーモービルに乗るか、“かんじき”を履いて歩いて登らなくてはなりません。そんなワイルドな環境で、娘はすくすくと成長していたのです。

さて、小学3年生になった娘は、クラスメートを何人か招いて山小屋でキャンプをしたいと言い出しました。友達と一緒に、子どもだけでご飯を作ったり、テントを張ったり、お風呂に入ったり、星空を見たり、人生を語ったり(!)しながら、大自然の中で過ごしたいというのです。

それは素晴らしいアイデアだと私は思いました。8歳か9歳の子どもたちが、2日間だけ親元から離れ、自分たちだけで食事の用意をしたり、テントの準備をしたりすることは、芽生えはじめた自立心を養ううえでとても良い経験になると思ったからです(もちろん、その


- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

①
×

営業管理の鍵は名刺にあり

ツールを活用して顧客データや商談内容を簡単に管理できる環境を構築！

jp.sansan.com



間は私たちが親代わりになるわけですが)。

話はトントン拍子にまとまって、女の子3人(おませなSちゃん、スケートが上手なAちゃん、家庭的なTちゃん)と、男の子2人(泣き虫なSくん、クールなTくん)、計5人のお友達が土曜日に山小屋へやって来て、日曜日まで泊まって行くことになりました。

子どもたちのお母さんたちは、もしかしたら心のどこかでお父さんのことを心配なさっていたかも知れませんが、そんな様子は少しも見せず、

「楽しんでいっちゃい！ 人さまに迷惑をかけないようにするのよ！」

と、笑顔で気持ち良く送り出してくれました。

5人の子どもたちは、パジャマや歯磨き、タオル、お菓子や飲み物を詰め込んだリュックサックを背負い、意気揚々と山小屋へやって来ました。到着するや、すぐにテントを設営し、炊事の薪として使うための小枝を拾いに森へ入り、火を起し、野菜の皮をむき、井戸のポンプを押して水を汲むなど、何から何まで自分たちでがんばって、八面六臂の大活躍です。

さて、もう日も暮れてきた頃、皆でわいわい騒ぎながら作ったカレーを食べることになりました。全員がテーブルに集まって席についたのですが、なぜか誰も「いただきます」を言おうとしません。一瞬、しんと静まった空気が流れ、それから暫くして娘が言ったことは、

「ねえ、皆いる？ 誰か1人足りなくない？」

すると、ほかの子どもたちも、

「私も今、同じことを思った。全員揃っていないような気がするよね」

と応じたではありませんか。

それを聞いて、私はすっかり驚いてしまいました。なぜなら、実はその時、私もまったく同じことを思っていたからです。ほんのちよっと前まで一緒にいた仲間が、急に1人減ったような、おかしい感じ。急いで子どもたちの頭数を数えたところ、ちゃんと全員が揃っていました。それなのに、この喪失感は何なのでしょう。

「さっきまで、誰かもう1人、一緒だったような気がするよね」

「でも、今は1人足りないね。それが誰だったのかは思い出せないんだけど」

カレーを食べているあいだも、子どもたちはずっと、そのことを言っていました。

「何だろう、この気持ち」

「皆が同じように感じるなんて、不思議だよね」

「もしかしたら、これが伝説の座敷わらしかな」

子どもたちは笑いながら、冗談半分にそんなことも言っていました。

「座敷わらしがいたら、その家には幸せが訪れるって言うよね。座敷わらしを追い出そうとしちゃいけないって」

そう言って子どもたちは、まるで玉が転がるような可愛い声でコロコロと笑ったのでした。

さて、実は、この話には後日談があるのです。日曜日の夕方に子どもたちをそれぞれの家に送り届けたあと、私は再び山小屋に帰り、テントの掃除をはじめました。家に帰る直前のギリギリの時間まで遊んで行ったので、子どもたちみずから掃除をする暇は、さすがになかったのです。

私がテントを片づけていると、寝袋などが散乱している奥のほうに、見覚えのない服が落ちていました。誰が忘れていったのでしょうか。それは、薄い生地で縫った羽織のような形の上着で、全面に井桁の模様がプリントされていました。今どき、誰がこんな服を着るのだろうと首を傾げたくなるようなデザインでした。

翌日、学校へ行った娘が5人のお友達に聞いたところ、不思議なことには、皆、「そんな服は知らないよ」と答えたと言うのです。私は、

(子どもたちが知らないうちに、お母さんが勝手にリュックサックに入れて持たせたのかも知れないから、お母さん方に直接聞いてみよう)

と思いなおし、問題の羽織を洗濯してアイロンをかけ、数日後の運動会の日に学校へ

持って行ったのです。その日なら、子どもたちのお母さん全員と学校で会えることがわかっていましたから。

私は5人のお母さん方に羽織風の上着を見せて、

「これがテントの中に落ちていたのですが、お宅のお子さんの忘れものではありませんか」

と、いちいち尋ねてみました。ところが、お母さんたちからの返事は「いいえ、違いますよ」。誰1人として、「その服はうちの子の物です」と答えた人はいなかったのです。

さらに不思議なことには、テントの片隅から突然現われ、持ち主がわからずじまだったあのレトロな服は、運動会の夜を最後に、また忽然とどこかへ消えてしまったのです。物陰にでも隠れているのではないかと、ほうぼう探したのですが、結局どうしても見つからないまま15年の歳月が過ぎてしまいました。

その後、山小屋で「誰かが急に1人足りなくなった」と感じるようなことは二度となく、持ち主のわからない服が現われたり消えたりするようなこともありません。あの時に皆が感じた不思議な想いがいったい何だったのかは、今も謎のままです。

娘の話によれば、当時のお友達の何人かは、大人になってからも逢うことがあるらしいのですが、逢えば必ずあの時の思い出話になり、

「あれは決して夢じゃなかったよね。本当に不思議な日だったね」

という話に落ち着くのだそうです。

座敷わらしと言っても、テレビに出てくるような着物姿におかっぱ頭の女の子を見たわけではありません。それどころか、私たちは何も見てはいないのです。にもかかわらず、あの時に皆が感じた、「自分たち以外の誰かがいるような不思議な感覚」は、いったい何だったのでしょうか。そして何より、あの羽織のような古めかしい服はどこへ行ってしまったのか。皆さんは、どう思われますか。

≪ [第10回 夢のお告げ](#) [第12回 母と子をつなぐ道](#) ≫

山田 真美（やまだ・まみ） プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士（高野山大学）。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学（豪）でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



英語を「九九」のようにマスター

1日20分・3ヶ月で、TOEIC 820点より英語力が上になる。英語のしくみは単純だ simpleenglish81.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう!](#)

[ないけんしてみよう!](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

不合格になる子の学習方法

頑張ったのに不合格になる子。その子達には、"共通点"があります koko-goukaku.netへ進む

